

西方院さいほういん

〔上野村の中にあり。開基は寂忍法師。○般若尼の塔寺内にあり、此尼は寂忍の母なり〕

真光寺しんくわうじ

〔大長瀬村の北にあり。本尊釈迦仏、行基の作、坐像、五尺許。開基考へず〕

売炭翁墓ばいたんをうのはか

〔勝林院村極楽院の後山にあり。此地は則小野山にして歌人の秀詠多し、多くは炭竈を讀。凡炭焼を業と

する所には売炭翁あり、此所も其首長の墓ならんか〕

拾玉

小野山も大原山も炭がまの煙はおなじあはれなるらん

慈 鎮

住吉百首

炭がまも氷室もおなじ小野山は火と水とこそ隔なりけれ

俊 成

炭焼やおぼろの清水鼻を見る

其 角

小野氷室をのひむろ

〔延喜式曰、山城国愛宕郡小野一所。云云〕

をの、氷室山のかたに残の花尋ねける日、僧都証観が

坊にてこれかれ哥よみけるによめる、

千 載

下寒る氷室の山の遅桜きへ残りける雪かとぞ見る

源 仲 正

拾 玉 ともさそふ小野の山への氷室山この涼しさは夏かあらぬか

慈 鎮

萱穂橋かやほのはし 「大原梶井御所の北にあり。此橋紀州高野山の御廟橋、奥州松島五台堂の梭橋に等しくして、造悪不善の者はわたる事を得ざるなり。土人曰毎歳一二人あり、皆見る所なりとぞ」

来迎橋らいがうばし 「萱穂橋の北にあり、截石の橋にして、欄干銅の擬宝珠あり。郷中の葬送此橋上に昇来つて、本尊阿弥陀仏に回向なさしむ」

後鳥羽院陵ごとばのみのみさぎ 「帝陵記曰、北大原勝林院塔頭実光院にあり。火葬所は隱岐国島前海部海士村源福寺にあり、小祠を建る」

獅子石ししせき 「融通寺堂前の右にあり、良忍上人こゝにて文殊の秘法を修せらる時、此石獅子と化して、踊めぐり声を発せしとなり」(釈書出)

羅漢橋らかんぼし

〔来迎院らいがうの前の石橋をいふ。伝云、むかし此橋上に十六羅漢現じ給ふとなん〕

法然上人腰掛石はふねんしやうにんこしかけいし

〔同所の西にあり。伝云、上人勝林院本尊しやうりんおんほんに参詣の時は、かならず此石上にやすらひ給ふとな

ん〕

姫祠ひめのやしろ

〔勝林院村往還しやうりんの西にあり、例祭三月五日〕

大津杜

〔草生村北二町ばかりの野中にあり〕

良暹山莊りやうせんさんさう

〔大原にあるよし袋草子に見へたり。旧地詳ならず〕

〔清輔袋草子きよすけ曰、人々大原に遊行す。おのく騎馬しけるに、俊頼朝臣としよりひとり俄に下馬しけり。人々驚いてこれを問しむるに。答て曰、此所良暹りやうせんが旧房なり、何んぞ下馬せざらんや。人々これをきゝて大に感歎し、皆下馬して行過ぬ。件の良暹房りやうせんの山莊今に於てありといふ。又ある僧語つて曰、良暹法師りやうせんが障子に書給ふ歌いまだ消せずとぞ〕

後拾遺

山里の甲斐もあるかな時鳥ときどりことしもまたで初音はつねきゝつる

良

暹

此歌後拾遺に有つて、定頼卿さだよりの和歌に末同じき歟、いづれが先に詠じ給ひけんや云云。

真守鉄盤石さねもりかなとこいし

〔草生村の東野村の内、北の方山下にあり。伝云、此所鍛冶真守が居宅なり、大原真守といふ名鍛冶

これなり〕